



田中久美子(たなか・くみこ) 乳腺外科副医長

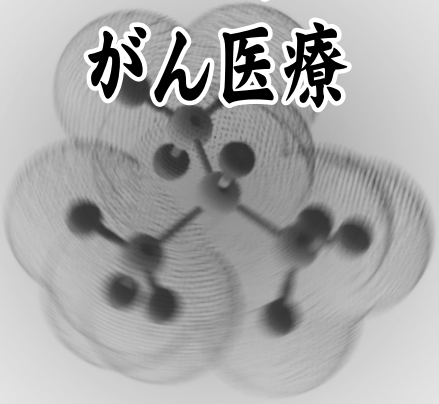
女性に最も多いがん

乳がんは女性のがんの中で最も多いがんで、40代、50代で多く見られます。日本では年に約3万5000人の女性が乳がんにかかっています...

乳がんの診断と治療

乳腺外科副医長 田中久美子氏

もっと知りたい! がん医療



〈企画・制作／静岡新聞社営業局〉

細胞診で5段階評価

婦人科のがんにはいろいろな種類があります。子宮の比較的出口のほうにできる子宮頸(けい)がん、子宮の奥のほうにできる子宮体がん、卵巣がん。そして、頻度が低く...



山田義治(やまだ・よしはる) 婦人科部長

岐阜県生まれ。文系学部を卒業後、三井記念病院(東京)、国立がんセンターの門病院(東京)を経て2002年から県立静岡がんセンター婦人科部長。趣味はスキー。

婦人科がんの診断と治療

婦人科部長 山田義治氏

子宮頸がんは、がん検査が普及して減ってきたと言われています。確かに子宮頸がんは、がん検査でがんの可能性が見つかると、子宮頸がん、子宮体がん、卵巣がん3つで婦人科がん、卵巣がんの95%を超えます。がんがあるかないかを...

重要な進行度の確認

がんの診断には、細胞診と組織診があります。細胞診は、存在診断には、細胞診と組織診があります。細胞診は、頸がんの治療には手術、放射線治療が行われます。乳頭、乳房切除が行われます。乳頭、乳房切除が行われます...

抗がん剤治療

抗がん剤治療は、主治療として抗がん剤を用いる場合があります。抗がん剤を用いる場合、補助療法として、放射線治療を行います。放射線治療は、放射線をかけておいたほうが良いという場合に追加治療として用いられます。

手術だけではない

乳がんの治療法には、手術だけでなく、抗がん剤治療、放射線治療など、いろいろな手段があります。乳がんはその場所だけにとどまらず、全身の性格が比較的に強いこともあり、多くの場合、手術以外の何らかの治療を行うことがわかれれば、エス、放射線治療の副作用は、一般に放射線という言葉からイメージされるよりも軽いものです。皮膚が赤くなったり、後々に肺炎を起こしたりすることがありますが、抗がん剤は白血球が減るといって、患者さん自身、その方々の理解をし、その方々の考えで治療を選択していただくということが大事だと思います。

抗ホルモン治療も

乳がんは女性ホルモンのため、部分切除をした後に、温存した乳房に集中的に放射線をかけていきます。毎日少しずつ、転移や再発に対しても放射線治療は有効で、骨、脳、10年は定期的に検査を受けることが必要です。

積極的に検査を

なぜ乳がんの早期発見が大事なのか。それは、早期に治療できれば、がんを治せる可能性が高くなるからです。進行した状態からの治療では、がんの完全治癒は難しくなります。乳がんが転移しやすいのは、骨、肝臓、肺、脳などです。乳房から離れた場所に転移が見つかった場合、治療による効果が比較的期待できるがんでありますが、治療の限界はあります。また、手術からかなり長い時間を経て再発することもあるので、手術後10年は定期的に検査を受けることが必要です。

最後に繰り返す

最後に繰り返すになりますが、触診だけの検査では早期発見は難しいので、日ごろから自分の乳房の状態に関心を持って、積極的にマンモグラフィ検査や超音波検査などの検査を受けていただきたいと思えます。それから、検査はぜひ信頼のできる検診機関、病院を選んでください。もし病気が発見されてしまった場合には、医師に病状についてよく説明してもらおうということが大切です。病状により医師から提示される治療法の中で、患者さん自身、その方々の理解をし、その方々の考えで治療を選択していただくということが大事だと思います。